

# 稲作ワンポイントアドバイス(No.4)

令和5年6月30日  
JA山口県長門統括本部  
長門農林水産事務所農業部

## 1 生育等の状況（水稻定点調査結果より） ※平年は過去5年平均データ

	移植日	草丈	1株茎数	葉齢	葉色
コシヒカリ	5/13 (平年5/9)	平年並 56cm(平年60cm)	平年並 24本(平年27本)	平年並 10.5(平年10.6L)	濃い 4.6(平年4.2)
ひとめぼれ	5/19 (平年5/18)	平年並 52cm(平年52cm)	平年並 23本(平年23本)	やや早い 10.4L(平年9.9L)	平年並 4.5(平年4.4)
きぬむすめ	5/29 (平年5/28)	短い 39cm(平年45cm)	平年並 19本(平年20本)	平年並 9.2L(平年9.1L)	やや濃い 4.8(平年4.5)
あきだわら	6/3 (平年5/30)	短い 34cm(平年41cm)	やや少ない 12本(平年17本)	平年並 8.2L(平年8.3L)	平年並 4.5(平年4.6)

- 一部で葉いもちが発生したほ場があります。
- 5月下旬植えのきぬむすめは中干し時期です。
- 5月上旬植えのコシヒカリの幼穂形成が始まりました（幼穂1mm以下）。

品種	移植期	出穂期の予想	調査ほ場の出穂予想
コシヒカリ	5月上旬	平年並	7/26前後

## 2 今後の管理のポイント

### (1) コシヒカリ・ひとめぼれ

#### ○肥培管理

#### ●緩効性肥料（元肥一発肥料）の場合

- ・極端に葉色が薄い場合（葉色3.5以下）は、出穂前13日頃に、窒素量で1～1.5kg/10a程度、追肥を行いましょう。

#### ●分施・穂肥一発肥料（穂づくり640）の場合

- ・穂肥は、1回目が早すぎると倒伏の危険性があり、2回目が遅すぎると（出穂前10日以降）食味低下のおそれがあるので、適期施用しましょう。

	分施（穂肥1回目）／穂づくり	分施（穂肥2回目）
コシヒカリ	出穂前18日頃（幼穂1cm）	出穂前13日頃
ひとめぼれ	出穂前20日頃（幼穂5mm）	出穂前13日頃

※ひとめぼれ栽培暦では幼穂5cmとありますが正しくは幼穂5mmです。

分施の場合		葉色	
		いつもより濃い	薄い（カーブ3.5以下）
茎数	多過ぎる (25本/株以上)	穂肥施用しない	1回目の穂肥量を減らす
	少ない	葉色が下がるのを待って 1回のみ穂肥施用	食味重視の場合：暦どおり 収量重視の場合：2回目の穂肥 をやや増やす

## 【参考】 幼穂と出穂前日数の関係

※気象条件によって数日変動します

幼穂の長さ	出穂前の日数	外形
肉眼で見えるが1mm以下	26日前	止葉の下の葉抽出
1～2mm	24日前	
5mm	20日前	
1cm	18日前	止葉抽出
4～6cm	13日前	(穂ばらみ始め)
20cm	6日前	

○水管理（地域の用水の状況や水利ルールに基づいて管理を行ってください）  
中干し後は走り水をし、**出穂20日前から湛水管理**を行いましょ。



### (2) きぬむすめ・あきだわら

○水管理（地域の用水の状況や水利ルールに基づいて管理を行ってください）

**茎数が18本/株程度**になったら「**中干し**（田面に軽くヒビが入る程度干す）」を行いましょ。（水不足の地域では湿潤状態を保つ管理）

### (3) 病害虫・雑草の管理等

#### 【葉いもち】

- ・葉いもちの病斑を見つけたら速やかに防除してください。



葉いもち病斑

#### 【トビイロウンカ】

- ・出穂前の基幹防除では必ずウンカ類に登録がある農薬を使用してください。
- ・直播など箱施用剤を使用していない場合は、株元をよく観察してください。

#### 【斑点米カメムシ類】

- ・カメムシの加害抑制のため、出穂2週間前までに畦草を刈り終わましょ。

### (4) その他

- ・こまめに水分と休憩を取り、熱中症を予防ましょ。

長門の水稻の病害虫発生状況、生育状況等をLINEにより発信しています。



「JA山口県 長門 米作りライン」